

全校朝会 講話(2.15)

皆さん、おはようございます。

先々週、節分について話をしたのを覚えていますか。その時に鬼の話をしたと思います。鬼は、怖いもの、というイメージがありますね。物語の中ではどうかと、図書館の品川先生にお願いして、鬼に関係のあるお話を集めてもらいました。

いくつかの本を紹介してみましよう。

まず、ももたろう。知らない人はいないと思います。桃から生まれた桃太郎が、きじと犬とサルを引き連れて鬼退治に行くという話です。

次に一寸法師。これも有名ですね。一寸は約 3 センチ。その小さい一寸法師が、都でお姫様を襲った鬼をやっつけて、幸せになる、というお話です。二つのお話、どちらも鬼は悪い生き物です。

次のお話はどうでしょうか。大工とおにろく。このお話の鬼は少し違うようです。川の水で橋が流されてしまいました。新しい橋を作ろうと考えていた大工さんに、鬼が現れてあっという間に橋を作っています。しかし、その代わりに大工さんの目玉をよこせというのです。どうなったでしょうか。

次のおにたのぼうし、というお話はどうでしょうか。かわいらしい鬼の子ども、名前をおにたといいます。おにたはとても心のやさしいおにでした。そのおにたが人助けをする、というお話です。

最後に、泣いた赤鬼。心の優しい赤鬼が、人間と仲良くなりたいけれど、人間は怖がって仲良くなれない。それを友達の青鬼がいろいろなことを考えて、やがて赤鬼が人間と仲良くなれたというお話です。でも、なんで赤鬼は泣いたんでしょうね。それは読んでみてのお楽しみです。この泣いた赤鬼は、4年生の道徳の本に載っています。

鬼にもいろいろな鬼がいるんですね。

ところで、ここにちょっと面白い題名の本があります。桃太郎は盗人なのか？盗人とは泥棒ということですが。面白そうな本なので、読んでみました。なんとこの本5年生の女の子が書いた本なんです。この本については、来週の全校朝会で紹介します。お楽しみに。今、読書週間ですね。そこでいくつかの本を紹介しました。みなさんもたくさん本を読んでください。

これで校長先生のお話を終わります。